

問題 7

正解

3

難易度

A

【本問のポイント】

等級別総合原価計算からの出題である。正常仕損費の負担先および仕損品評価額の処理に注意しつつ、慎重に資料を読み確実に得点していただきたい。また、[資料] 4. (5) から、TACでいうところの第3法であることが読み取れる。

「当月製造費用を等価係数によって各製品に按分する」⇒組別総合原価計算に近い方法 (P147, 142)

【解説】

P150

1. 当月製造費用の按分

(1) 直接材料費

←第1段階は「度外視」はい!
(各製品組へのインポート原価を
確定するため
手続だから)

第3法
⇒押返す
解き方

積数合計 8,600個	製品 X 5,000個
3,792,600円	2,205,000円
(@441円)	製品 Y * 3,600個
	1,587,600円

* 製品 Y 当月投入 4,500個 × 等価係数 0.8

月初仕掛品 200個	完成品 4,300個
当月投入 5,000個	
2,205,000円	正常仕損品 300個
	異常仕損品 200個
	月末仕掛品 400個

月初仕掛品 100個	完成品 4,000個
当月投入 4,500個	
1,587,600円	正常仕損品 200個
	月末仕掛品 400個

(2) 加工費

積数合計 7,260個	製品 X 4,800個
6,679,200円	4,416,000円
(@920円)	製品 Y * 2,460個
	2,263,200円

* 製品 Y 当月投入 4,100個 × 等価係数 0.6

月初仕掛品 20個	完成品 4,300個
当月投入 4,800個	
4,416,000円	正常仕損品 150個
	異常仕損品 50個
	月末仕掛品 320個

月初仕掛品 60個	完成品 4,000個
当月投入 4,100個	
2,263,200円	正常仕損品 80個
	月末仕掛品 80個

この解答速報の著作権はTAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

資料4.(3)より、P131の②のパターンであることを読み取る。

2. 製品Xの直接材料費の計算

月初仕掛品 200個	完成品 4,300個	月初仕掛品 200個	完成品 4,300個
		88,400円	
当月投入 5,000個		4,800個 → 4,500個	∴ 1,994,900円
		当月投入 2,205,000円	
2,205,000円	正常仕損品 300個	△異常仕損費88,200円	
		△仕・評価額24,300円	正常仕損品 300個
	月末仕掛品 400個	2,092,500円	
		(@465円)	月末仕掛品 400個
(@441円)	異常仕損品 200個		186,000円
	88,200円		

「仕損」と言えば「評価額」!

第1段階：異常仕損費を一旦抜き出す

第2段階：正常仕損品を度外視して計算する

3. 製品Xの加工費の計算

月初仕掛品 20個	完成品 4,300個	月初仕掛品 20個	完成品 4,300個
		18,500円	
当月投入 4,800個		4,750個 → 4,600個	∴ 4,084,500円
		当月投入 4,416,000円	
4,416,000円	正常仕損品 150個	△異常仕損費46,000円	
		4,370,000円	正常仕損品 150個
	月末仕掛品 320個	(@950円)	月末仕掛品 320個
(@920円)	異常仕損品 50個		304,000円
	46,000円		

第1段階：異常仕損費を一旦抜き出す

第2段階：正常仕損品を度外視して計算する

4. 製品Xの完成品原価

直接材料費1,994,900円＋加工費4,084,500円＝6,079,400円

よって、正解は3である。

問題 8

正解

2

難易度

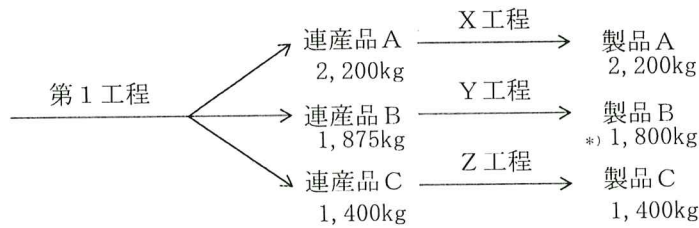
B

【本問のポイント】

連産品の原価計算からの出題である。分離点における正常市価を基準として按分する方法（NRV法）およびすべての製品の売上高総利益率を等しく按分する方法（修正NRV法）の計算方法の違いを理解していれば、正答できるであろう。

【解説】

本問の生産状況を示すと、以下のとおりである。



*) 連産品B $1,875\text{kg} \times (1 - \text{正常減損率} 4\%)$

1. NRV法 P153

〔資料〕において、正常追加加工費と実際追加加工費が与えられているが、連結原価の按分に あたっては、正常追加加工費を用いる点に注意する。 なお、修正NRV法においても同様である。

連結原価

合計 23,500,000円	A *1) 13,778,500円	⇒ X工程へ
18,468,400円	B *2) 7,136,500円	⇒ Y工程へ
(@0.78...円)	C *3) 2,585,000円	⇒ Z工程へ
	2,031,524円	

連結原価の
負担能力を
算定している。
↓

「価値回収的
原価計算」
P159

- *1) 正常市価8,400円×生産量2,200kg－正常追加加工費4,701,500円
- *2) 正常市価6,200円×生産量1,800kg－正常追加加工費4,023,500円
- *3) 正常市価4,500円×生産量1,400kg－正常追加加工費3,715,000円

「販売量」
ではない！

（按分には当月に売り残ったか
どうかは関係ないから）

「按分には当月の突発的事象は
影響させない」という
考え。

2. 修正NRV法 P154~155

(1) 全体の売上総利益率の計算

すべて売り切った場合の利益率(原価率)

	製品A	製品B	製品C	合計
売上高	*1) 18,480,000円	11,160,000円	6,300,000円	35,940,000円
連結原価	?	?		18,468,400円
正常追加加工費	4,701,500円	4,023,500円	3,715,000円	12,440,000円
原価合計	?	?	?	30,908,400円
売上総利益	?	?	?	5,031,600円
売上総利益率	?	?	?	*2) 0.14

*1) 正常市価8,400円×生産量2,200kg

*2) 売上総利益合計5,031,600円÷売上高合計35,940,000円

(2) 各連産品の原価合計の計算

ここからは、解答上必要な製品Cのみを計算する。

	製品C
売上高	6,300,000円
連結原価	?
正常追加加工費	3,715,000円
原価合計	*2) 5,418,000円
売上総利益	*1) 882,000円
売上総利益率	0.14

*1) 売上高6,300,000円×売上総利益率14%

*2) 売上高6,300,000円－売上総利益882,000円

(3) 連結原価配分額の計算

	製品C
売上高	6,300,000円
連結原価	*1) 1,703,000円
正常追加加工費	3,715,000円
原価合計	5,418,000円
売上総利益	882,000円
売上総利益率	0.14

やはり、「価値回復的原価計算」

*1) 原価合計5,418,000円－正常追加加工費3,715,000円

3. 按分原価の差額の計算

NRV法2,031,524円－修正NRV法1,703,000円＝**328,524円**

よって、正解は2である。

問題 9

正解

1

難易度

A

【本問のポイント】

総合原価計算全般についての出題である。「原価計算基準」に関する知識も必要である。

【解 説】

ア. 正しい。 総合原価計算において、副産物が生ずる場合には、その価額を算定して、これを主産物の総合原価から控除する。

基準28→基準36
(総合) (個別)
を讀む。

軽微な副産物は、前項の手続によらないで、これを売却して得た収入を、原価計算外の収益とすることができる。

作業くず、仕損品等の処理および評価は、副産物に準ずる。(基準28) p160脚注1

イ. 誤 り。 確かに、純粹先入先出法により完成品の単位原価を算定すると、当月作業と前月作業による原価を識別することができる。しかし、価格決定目的からすると、月ごとの単位原価の変動は小さい方が望ましく、したがって、期首仕掛品完成分と当期投入完成分を平均して単位原価を算定する修正先入先出法の方が有効な資料を得ることができる。p105表→ p105~107 原価管理の点からは、修正FIFOが望ましい。

ウ. 正しい。 この場合は、度外視法でも非度外視法でも、正常仕損費を完成品のみに負担させることになり、期末仕掛品原価の金額は等しくなる。 p119

エ. 誤 り。 期末仕掛品の数量が每期ほぼ等しい場合には、総合原価の計算上これを無視し、当期製造費用をもってそのまま完成品総合原価とすることができる。(基準24(2)6) p108

オ. 誤 り。 原料がすべて最初の工程の始点で投入され、その後の工程では、単にこれを加工するにすぎない場合には、各工程別に一期間の加工費を集計し、それに原料費を加算することにより、完成品総合原価を計算する。この方法を加工費工程別総合原価計算(加工費法)という。(基準26) p134 問題文は「非累加法」の説明。

カ. 誤 り。 連産品とは、同一工程において同一原料から生産される異種の製品である。 p158
(基準29)

よって、正解は1である。

※整理図 (B材料のコスト・仕度)

この解答速報の著作権はTAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

問題6

正解

2

難易度

B

【出題内容】

工程別総合原価計算 (非度外視法、追加材料の投入)

【解説】

1. 第1工程から第2工程までの原価配分

A材料費		前工程費	
月初 300個 156,600円	完成 2,000個 1,040,600円	月初 200個 232,400円	完成 1,500個 1,741,180円
当月 2,100個	(差額)	当月 2,000個	(差額)
1,092,000円 (@520円)	月末 400個 208,000円	→ 2,321,200円 (@1,160.6円)	正仕 200個 232,120円
			月末 500個 580,300円
第1工程加工費		第2工程加工費	
月初 150個 96,600円	完成 2,000個 1,280,600円	月初 80個 51,200円	完成 1,500個 955,740円
当月 2,010個	(差額)	当月 1,920個	(差額)
1,286,400円 (@640円)	月末 160個 102,400円	→ 1,223,040円 (@637円)	正仕 100個 63,700円
			月末 400個 254,800円
B材料費			
当月 1,750個 840,000円 (@480円)	完成 1,500個 720,000円		
	月末 250個 120,000円		

※) 月末仕掛品量500個 × $\frac{80\% - 60\%}{100\% - 60\%}$

2. 第2工程の正常仕損費の配分

正常仕損品の発生時点(50%) < 月末仕掛品の進捗度(80%) より、両者負担と判断する。

正常仕損費	
合計 1,800個	完成 *1) 1,300個 211,120円
*2) 292,320円 (@162.4円)	月末 500個 81,200円

*1) 完成品量1,500個 - 月初仕掛品量200個

*2) 前工程費232,120円 - 評価額*3) 3,500円
+ 加工費63,700円

*3) 評価額(175円 ÷ 10個) × 正常仕損量200個

「仕損」と言えば「評価額」!

3. 第2工程の完成品原価の計算

前工程費1,741,180円 + 加工費955,740円 + B材料費720,000円 + 正/仕211,120円 = 3,628,040円

以上より、正解は2となる。

P116

非度外視法では、
分離把握した
正常仕損費
を合算したものを
追加配賦する!

問題 7

正解

3

難易度

B

第3法(P147)の「押し返す解法」をよく理解しよう。

【出題内容】

等級別総合原価計算（第3法、正常仕損、逆進推定）

【解説】

〔資料〕4.(1)の、「出来るだけ正確に等級製品の製造原価を把握するために、等価係数は原料費と加工費に区分して、当月製造費用を等級製品に按分する際に使用している。」との指示から、第3法であることが分かる。第3法の場合、等価係数は、各等級製品の当月投入単位原価の比率から求めることができることから、それが分かれば解答することができる。なお、解説では当月製造費用の按分までを示している。

→ 組別総合原価計算に近い方法 (P147, 142)

1. 原料費の計算

当月製造費用の按分

完成品と月末仕掛品への按分

完成品原価

		仕掛品 X (原料費)			
X	4,950,000円	月初	10,000個 623,750円	初→完	10,000個 623,750円 ←
		当月	90,000個 4,950,000円 (@55円)	当→完	77,500個 4,276,250円 ←
				当→仕損	250個
				②	(*, @55円)
			月末	12,250個 ? 円	

		仕掛品 Y (原料費)			
Y	3,080,000円	月初	5,000個 246,000円	初→完	5,000個 246,000円 ←
		当月	70,000個 3,080,000円 (@44円)	当→完	60,000個 2,640,000円 ←
				②	(@44円)
			月末	10,000個 ? 円	

完成品 87,500個

4,900,000円

完成品 65,000個

2,886,000円

③ 原料費

③ ③

③ ③

法

返可解法

147

第3法
「押し返す解法」
P147

*) 完成品に含まれる当月製造費用4,276,250円
当月投入完成品77,500個 + 正常仕損品250個

製品 X (@55円) : 製品 Y (@44円) = 製品 X 1 : 製品 Y 0.8

「仕損」と言えば「評価額」!
ただし、本問では、評価額はゼロ。

2. 加工費の計算

当月製造費用の按分

完成品と月末仕掛品への按分

完成品原価

		仕掛品X (加工費)		完成品 87,500個 3,517,500円
		月初 2,500個 107,500円	初→完 2,500個 107,500円	
		当月 91,375個	当→完 85,000個 当→仕損 250個	①
		3,655,000円 (@40円)	② 3,410,000円 (*) @40円	
			月末 6,125個 ? 円	

		仕掛品Y (加工費)		完成品 65,000個 1,599,000円
		月初 3,750個 129,000円	初→完 3,750個 129,000円	
		当月 63,250個	当→完 61,250個 ② 1,470,000円 (@24円)	①
		1,518,000円 (@24円)	月末 2,000個 ? 円	

加工費	
X	3,655,000円
Y	1,518,000円

第3法
⇒ 押し返す解き方
p147

$$\frac{\text{完成品に含まれる当月製造費用} 3,410,000 \text{円}}{\text{当月投入完成品} 85,000 \text{個} + \text{正常仕損品} 250 \text{個}}$$

$$\text{製品X (@40円)} : \text{製品Y (@24円)} = \text{製品X } 1 : \text{製品Y } 0.6$$

以上より、正解は3となる。

問題6

正解

4

難易度

A

【出題内容】

計算 総合原価計算（非度外視法、副産物、追加材料の投入）

【解説】

原料Bの進捗度の計算に注意し、正答して欲しかった。

1. 原価配分

原料 A				原料 B			
月初	100kg	完成	9,800kg	月初	0kg	完成	9,800kg
	1,000千円		124,240千円		0千円		295,500千円
当月	10,000kg	副産物	50kg	当月	9,980kg	副産物	50kg
		正損	50kg			正損	*1) 10kg
	126,400千円		632千円		299,400千円		300千円
		月末	200kg			月末	*2) 120kg
	(@12.64千円)		2,528千円		(@30千円)		3,600千円
加工費				正常仕損費			
月初	40kg	完成	9,800kg	合計	9,950kg	完成	*1) 9,750kg
	800千円		216,620千円				1,560千円
当月	10,000kg	副産物	50kg		1,592千円	月末	200kg
		正損	30kg		(@0.16千円)		32千円
	220,000千円		660千円				
		月末	160kg				
	(@22千円)		3,520千円				

*1) 正損 50kg × $\frac{60\% - 50\%}{100\% - 50\%}$ (*1)

*2) 月末200kg × $\frac{80\% - 50\%}{100\% - 50\%}$ (*1)

(*2) 終点発生だから。
P161①i

*1) 計算上の完成品 (9,800kg + 50kg) - 月初100kg

「仕損」と言えは「評価額」。
ただし、本問では評価額ゼロ。
副産物は評価額あり。

2. 当月の完成品原価の計算（ 部分）

原料A 124,240千円 + 原料B 295,500千円 + 加工費216,620千円 + 正常仕損費1,560千円

- 副産物評価額 (@ 5千円 × 50kg) = **637,670千円**

以上より、正解は4となる。

P116
非度外視法では、分離把握した
正常仕損費を合算したものを追加で賦する。

忘れるな！
逆に、これを引き忘れたと「637,920千円」は
引っかけ肢。（差額法によるテクニック）
一瞬で答えが出る。

問題 7

正解

3

難易度

A

【出題内容】

計算 総合原価計算（減損率が安定している場合）

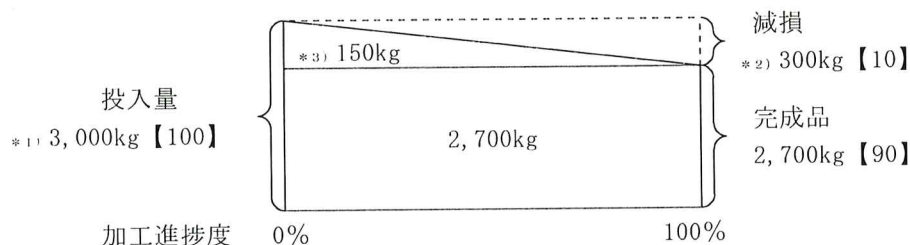
【解説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

1. 数量関係の把握と加工費の完成品換算量

本問の生産状況を図で示すと、以下のようになる（実線部分が原料数量、破線部分が減損量を示しており、【 】内の数値は、始点投入量100に対する減損率と歩留率を示す）。

(1) 投入完成品（第1バッチ、第2バッチ）

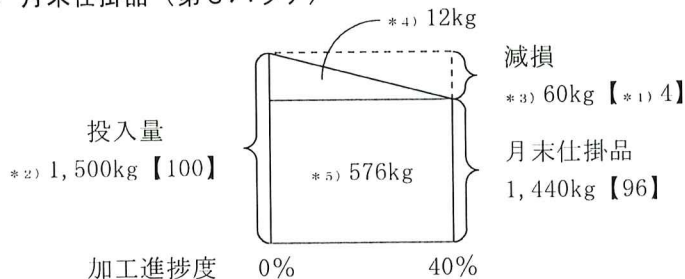


*1) 第1バッチ1,000kg + 第2バッチ2,000kg

*2) 投入量3,000kg - 完成品量2,700kg

*3) 減損量300kg $\times$ 1/2

(2) 月末仕掛品（第3バッチ）



*1) 工程終点減損率10% $\times$ 加工進捗度40%

*2) 【資料】1. より

*3) 投入量1,500kg - 月末仕掛品量1,440kg

*4) 減損量60kg $\times$ 加工進捗度40% $\times$ 1/2

*5) 月末仕掛品量1,440kg $\times$ 加工進捗度40%

3枚の製造指図書があるが、それぞれを区別しない。 ← 総合原価計算。

バッチ(ロット) ← P313脚注
⇒ 1回の生産(製造)や1回の購入などの
単位のこと。

バッチ(ロット)生産に対応する製品別計算
⇒ 総合原価計算を適用する場合、
原価の集計単位は期間生産量となる。
バッチ(ロット)の違いは、関係がない。
p85

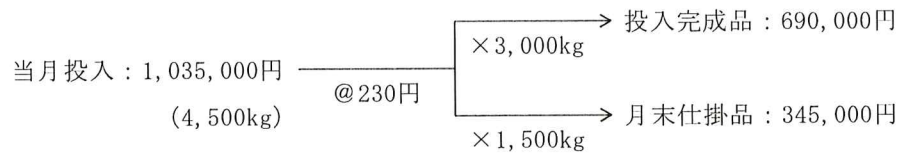
台形

原料費 ⇒ 左端線
加工費 ⇒ 面積

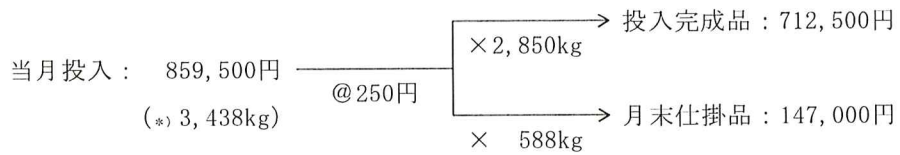
この解答速報の著作権はT A C (株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

非度外視法

2. 原料費の配分



3. 加工費の配分



*) 投入完成品(150kg+2,700kg)+月末仕掛品(12kg+576kg)

4. 完成品総合原価の計算

原料費690,000円+加工費712,500円=1,402,500円

以上より，正解は3となる。

問題 6

正解

4

難易度

A

【出題内容】

計算 工程別総合原価計算（累加法、減損の処理、追加材料の投入）

【解説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

1. 第1工程の計算

原料費

当月	3,000kg	完成	2,760kg
			3,877,800円
		正減	40kg
	4,215,000円		56,200円
	(@1,405円)	月末	200kg
			281,000円

加工費

当月	2,830kg	完成	2,760kg
			1,551,120円
		正減	20kg
	1,590,460円		11,240円
	(@562円)	月末	50kg
			28,100円

正常減損費

合計	2,810kg	完成	2,760kg
原料費	56,200円		66,240円
加工費	11,240円		
合計	67,440円	月末	*1) 50kg
	(@24円)		1,200円

P116
非度外視法では、分離把握した正準仕損費を合算し、これを追加配賦する。

P117 ③ 仕損(減損)が工程を遡って平均的に発生するケース
1:加工進捗度

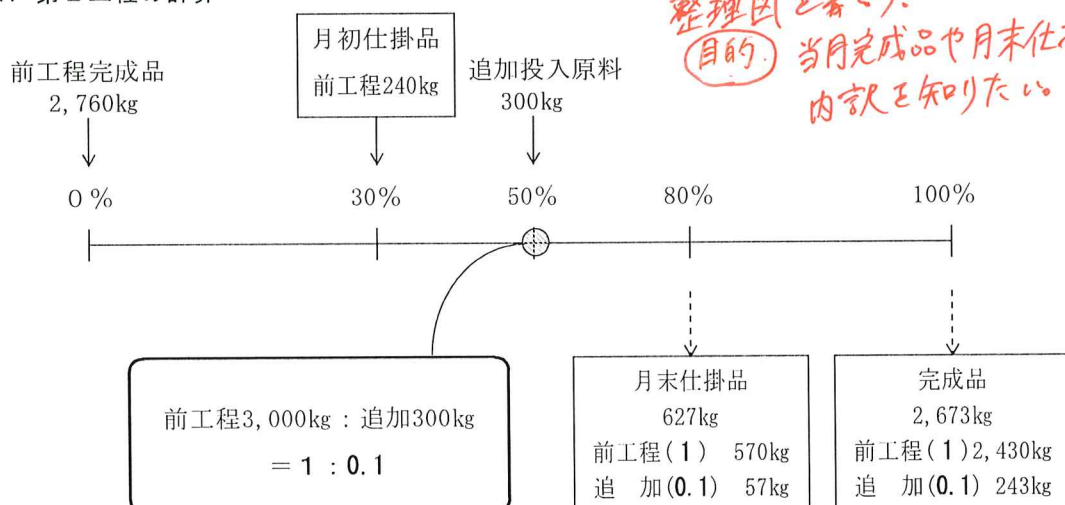
第1工程完成品原価：() 5,495,160円

2. 第2工程の計算

追加材料により生産量が増加する。

整理図を書く。

目的 当月完成品や月末仕掛品の内訳を知りたい



240	2,673
{ 240	{ 2,430
0	{ 243
3,060	627
{ 2,760	{ 570
300	{ 57

当月に追加材料の投入点(50%点)を通過した原料は3,000kg(240kg+2,760kg)あり、それに対し、300kgの追加材料があった。

この解答速報の著作権はTAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

追加材料による増量分を
考慮しない(資料3.(3))
↑ p112(3)

前工程費

月初	240kg	完成	2,430kg
	480,000円		
当月	2,760kg	∴	4,840,290円
	5,495,160円	月末	570kg
	(@1,991円) →		1,134,870円

加工費

月初	72kg	完成	2,430kg
	14,400円		
当月	2,814kg	∴	603,900円
	703,500円	月末	*1) 456kg
	(@250円) →		114,000円

原料費(追加)

月初	0kg	完成	243kg
		∴	303,750円
当月	300kg		
	375,000円	月末	57kg
	(@1,250円) →		71,250円

*1) 月末仕掛品570kg×加工進捗度80%

第2工程完成品原価：() 5,747,940円

以上より、正解は4となる。

問題 8

正解

3

難易度

A

【出題内容】

計算 組別・等級別総合原価計算（第3法、非度外視法）

【解説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

1. 組製品Aの直接労務費の計算

直接工賃率2,816円×直接作業時間*)1,000時間=2,816,000円

*) 組間接費は直接作業時間により組別配賦を行っているため、直接作業時間合計を各組製品の製造間接費に基づいて按分すれば、各組製品の直接作業時間を計算できる。

直接作業時間合計4,500時間

製造間接費合計(A300,000円+B450,000円+C600,000円)

×A300,000円

2. 当月製造費用の按分

直接材料費

積数合計	5,300個	A1当積	2,000個
			500,000円
1,325,000円		A2当積*	3,300個
(@250円)			825,000円

*1) 当月投入3,000個×等価係数1.1

加工費

積数合計	6,232個	A1当積	1,855個
			927,500円
3) 3,116,000円		A2当積	4,377個
(@500円)			2,188,500円

*2) 当月加工2,918個×等価係数1.5

*3) 直労2,816,000円+製間300,000円

3. 等級製品A2の完成品総合原価

直接材料費

当月	3,000個	完成	2,830個
			778,250円
825,000円		正損	70個
(@275円)			19,250円
		月末	100個

加工費

当月	2,918個	完成	2,830個
			2,122,500円
2,188,500円		正損	28個
(@750円)			21,000円
		月末	60個

正常仕損費

合計	2,930個	完成	2,830個
			38,876円
40,250円		月末	100個
(@13.7...円)			

完成品総合原価(□部分)：

直接材料費778,250円+加工費2,122,500円

+正常仕損費38,876円=2,939,626円

以上より、正解は3となる。

PI16
非度外視法では、分離把握した正常仕損費を
合算したものを追加調整する。
「仕損」と言えば、「評価額」。
ただし、本問では、評価額ゼロ。

問題 5

正解

5

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 総合原価計算

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

- ア. 誤 り。 各等級製品について適当な等価係数を定め、一期間における完成品の総合原価又は一期間の製造費用を等価係数に基づき各等級製品にあん分してその製品原価を計算する。（基準22） *アウト基準* *147*
- イ. 正しい。 （基準23） *142*
- ウ. 誤 り。 加工費について期末仕掛品の完成品換算量を計算することが困難な場合には、当期の加工費総額は、すべてこれを完成品に負担させ、期末仕掛品は、直接材料費のみをもって計算することができる。（基準24(2)4） *108*
- エ. 正しい。 （基準29） *152*

以上より、正しいものはイ、エであり、正解は5となる。

問題 7

正解

2

難易度

C

【出題内容】

計算 組別総合原価計算（非度外視法、副産物、追加材料）

【解説】

問題文冒頭で説明されている生産状況の把握が難しいので、後回しにして欲しかった。

1. 製品Bの計算

原料費 FIFO			加工費 FIFO		
月初	125kg	完成	月初	100kg	完成
		∴ 500kg			∴ 500kg
	38,500円	∴ 151,000円		80,500円	∴ 400,500円
当月	465kg		当月	425kg	
	139,500円	異損	*1) 340,000円		異損
	(@300円)	20kg			4kg
		6,000円		(@800円)	3,200円
		月末			月末
		70kg			21kg
		21,000円			16,800円

*1) (実際賃率1,200円 + 予定配賦率*2) 800円) × 実際直接作業時間0.4時間/kg

加工費 ⇒ 原料費以外の原価要素すべて (P104)

× 当月加工量425kg

*2) 製造間接費予算14,400,000円 ÷ 予定直接作業時間18,000時間

製品B完成品単位原価：(原料費151,000円 + 加工費400,500円) ÷ 完成品量500kg = @1,103円

2. 製品Aの計算

(1) 原料費と加工費の計算 追加材料投入前

原料費 FIFO			加工費 FIFO		
当月	2,500kg	完成	当月	2,330kg	完成
		∴ 1,850kg			1,850kg
		1,400,000円			800,000円
		副			副
		150kg			150kg
		正損			正損
		100kg			50kg
		70,000円			20,000円
		月末			月末
		400kg			280kg
		280,000円			112,000円

正常仕損費		
合計	2,400kg	完 + 副
		1,850kg + 150kg
		75,000円
		月末
		400kg
		15,000円

P116 非度外視法では、分離把握した正常仕損費を合算したものを追加配賦する
← 豆腐の製造工程途中(50%点)で発生した正常仕損費も、終点で分離される副産物(おから)にも負担させるイメージ。

* (実際賃率1,200円 + 予定配賦率800円) × 実際直接作業時間0.2時間/kg × 当月加工量2,330kg

「仕損」と言えば、評価額。
 ただし、本問では評価額ゼロ。

(2) 追加投入される製品Bの原価

追加材料投入前製品A完成品量 $1,850\text{kg} \times 0.1 = 185\text{kg}$

製品B完成品単位原価@ $1,103\text{円} \times \text{追加投入量}185\text{kg} = 204,055\text{円}$

副産物からの利益は
ゼロ。と考えるパターン。

(3) 副産物評価額 *P160 (2) 原則*

(見積売却価格 800円/kg - 見積販売費及び一般管理費 290円/kg) $\times$ 副産物 $150\text{kg} = 76,500\text{円}$

(4) 製品A完成品原価 *P161 (3) ①*

原料費 $1,400,000\text{円}$ + 加工費 $800,000\text{円}$ + 正常仕損費 $75,000\text{円}$ + 製品B $204,055\text{円}$

- 副産物評価額 $76,500\text{円} = 2,402,555\text{円}$

以上より、正解は2となる。

問題 6

正解

3

難易度

B

【出題内容】

計算 総合原価計算（追加材料の投入、非度外視法、累加法）

【解説】

見慣れない指示が含まれているが、何とか正答して欲しかった。

1. 当月加工費

(1) 製造間接費の予定配賦率

製造間接費予算15,000,000円÷予定直接作業時間30,000時間＝500円

(2) 加工費

A 工程：（予定賃率2,000円＋予定配賦率500円）×961時間＝2,402,500円

追加工程：（予定賃率2,000円＋予定配賦率500円）×132時間＝ 330,000円

2. A工程

原料費 α				加工費			
月初	780kg	完成	1,880kg	月初	78kg	完成	1,880kg
	? 円		? + 660,000円		? 円		? + 2,252,500円
当月	∴ 1,980kg		(差額)	当月	∴ 1,922kg		(差額)
		正損	80kg			正損	*1) 40kg
			48,000円				50,000円
	1,188,000円	月末	800kg		2,402,500円	月末	80kg
	(@600円)		480,000円		(@1,250円)		100,000円

正常減損費			
合計	1,960kg	完成	*2) 1,880kg
	98,000円		94,000円
	(@50円)	月末	80kg

*1) 正常減損80kg×50%

*2) [資料] 3. (3) の、「完成品への負担計算では、月初仕掛分と当月投入分を区分しないものとする」から、完成品数量全体を用いる。

製品A完成品総合原価：月初仕掛品原価572,500円＋原料費 α 660,000円＋加工費2,252,500円
＋正常減損費94,000円＝3,579,000円

P116
非度外視法では、分離把握した
正常仕損費を合算したものを追加配賦する。

普通は、月初分を引く!
P123

3. 追加工程

① 問題文冒頭にある、「当月に完成した製品Aのうち半分の量に対して、同量の原料βを追加投入しこれを加工し完成品となる」との指示から、製品A940kg($=1,880\text{kg} \div 2$)を追加工程に振替え、原料β940kgを追加投入したと判断する。

② [資料] 1. 当月生産データから計算した当月製品A投入量及び原料β合計は1,880kg(=完成品1,000kg+月末仕掛品700kg+正常仕損品180kg)であることから、追加材料の投入により生産量が増加するケースと判断する。ただし、製品Aと原料βは追加工程の始点で投入されることから、以下ではまとめて計算している。

③ [資料] 3. (2)に、「正常仕損は工程の終点で発生しており」とあることから、正常仕損費は完成品のみ負担と判断する。なお、度外視法でも非度外視法でも計算結果は変わらないため、便宜上度外視法を用いる。

前工程費(製品A)&原料費β		追加工程加工費	
当月	∴ 1,880kg	当月	∴ 1,320kg
前	* 1,789,500円	完成	1,000kg
β	466,500円		295,000円
	2,256,000円	正損	180kg
	(@1,200円)	月末	140kg
		330,000円	
		(@250円)	

* 製品A完成品総合原価3,579,000円 $\div 2$

製品Bの完成品総合原価：前工程費(製品A)&原料費β1,416,000円

+ 追加工程加工費295,000円 $=1,711,000$ 円

4. 製品Bの単位当たり完成品原価

製品B完成品総合原価1,711,000円
完成品量1,000kg $=1,711$ 円

「仕損」と言えば、評価額。
ただし、本問では評価額ゼロ。

問題 6

正解

6

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 総合原価計算

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

- ア. 誤 り。 等級製品の原価計算に採用される等価係数として、正常市価基準によるものは認められていない。（基準22） *p159. 2(1)*
- イ. 誤 り。 連産品の場合、総合原価は、分離点における連産品の正常市価等に数量を乗じた金額に基づいてあん分される。（基準29） *p152*
- ウ. 正しい。 （基準29） *p152~153*
- エ. 正しい。 （基準28） *p160*

問題 5

正解

2

難易度

A

【出題内容】

計算 総合原価計算（度外視法，異常仕損，累加法）

【解 説】

正常仕損費の負担先に関する指示がないが，以下のように判断し，確実に正答して欲しかった。

・両工程とも正常仕損が工程の途中点で発生しているため，正常仕損費を月末仕掛品に負担させる。
P118(2)②

・第一工程の異常仕損は正常仕損の発生点を通過しているため，正常仕損費を異常仕損品にも負担させる。
P131(1)

1. 第一工程の完成品総合原価（正常仕損1/5<異常仕損3/5：三者負担）

A材料費 FIFO		加工費 FIFO	
月初+当月 3,150個 3,050個	完成 2,300個 4,830,000円	月初+当月 2,550個 2,530個	完成 2,300個 9,200,000円
月初 402,000円		月初 817,200円	
当月 6,003,000円	正損 100個	当月 9,302,800円	正損 20個
合計 6,405,000円	異損 50個	合計 10,120,000円	異損 30個
(@2,100円)	月末 700個	(@4,000円)	月末 200個

第一工程完成品原価：A材料費4,830,000円+加工費9,200,000円=14,030,000円

2. 第二工程の完成品総合原価（両者負担）

前工程費 FIFO		加工費 FIFO	
月初+当月 2,500個 2,400個	完成 2,100個 * 13,650,000円	月初+当月 2,400個 2,340個	完成 2,100個 * 4,620,000円
月初 1,570,000円		月初 475,800円	
当月 14,030,000円		当月 4,672,200円	
合計 15,600,000円	正損 100個	合計 5,148,000円	正損 60個
(@6,500円)	月末 300個	(@2,200円)	月末 240個

B材料費	
当月 2,100個	完成 2,100個
248,000円	* 248,000円

*	合計：18,518,000円
----------------------------------	----------------

仕損 と言えは、評価額。
ただし、本問では評価額ゼロ。